

中期目標の達成状況に関する評価結果

宇都宮大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	7
《本文》	11
《判定結果一覧表》	19

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

地域の「知」の拠点として、地域から期待・信頼されることはもとより、広く社会に貢献すべく開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践して、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。そのために透明な大学運営の下で、①学士課程のみならず大学院課程における教育の質の維持・向上と保証に努め、幅広く、深い教養と実践的な専門性を身につけた未来を切り開く高度な専門職業人を養成する。また、②持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、光学などの特定分野については極めて高い水準で特色ある研究を推進する。さらに、③自ら築いた教育研究の成果を発信して社会連携機能を高め、地域社会のみならず広く国際社会・国際交流に貢献する積極的な活動を展開し、キラリと光る元気な大学を目指す。

大学名 国立大学法人宇都宮大学

所在地 栃木県宇都宮市

1. 学部等の構成

学部： 国際学部、教育学部、工学部、農学部

研究科： 国際学研究科（博士前期・後期課程）、教育学研究科（修士課程・専門職学位課程）、工学研究科（博士前期・後期課程）、農学研究科（修士課程）、連合農学研究科（博士課程）

関連施設： 地域連携教育研究センター、雑草と里山の科学教育研究センター、総合メディア基盤センター、留学生・国際交流センター、地域共生研究開発センター、バイオサイエンス教育研究センター、附属図書館、保健管理センター、キャリア教育・就職支援センター、基盤教育センター、オプティクス教育研究センター、教職センター

学部附属施設： 国際学部附属多文化公共圏センター、教育学部附属学校（幼・小・中及び特別支援）、工学部附属ものづくり創成工学センター、農学部附属農場、農学部附属演習林

2. 学生数及び教員数（平成27年5月1日現在）

学生数：学部 4,160 人、大学院 768 人

専任教員数：340 人

3. 沿革と立地特性

宇都宮大学は、栃木師範学校及び宇都宮農林専門学校を母体とし、昭和24年に学芸学部（現教育学部）と農学部の2学部からなる新制国立大学として発足した。その後昭和39年に工学部が、平成6年には国際学部が設置され、4学部からなる中規模総合大学として今日に至っている。なお、地域の“知”の拠点としての機能強化に関連して、学長ガバナンスの下で学内資源の再配分を行い、第2期において5番目の学部として「地域デザイン科学部」の設置（平成28年度）に結びつけた。

宇都宮大学は、豊かな自然資源を有し幅広い産業が展開する北関東栃木県に立地し、県内唯一の国立大学として地元から高い期待と厚い信頼を受けている。この地域は、第1次産業から第3次産業まで全国の縮図と言えるべき産業構成と性格を有しており、多種多様な課題に対して適性の高い教育・研究フィールドを抱えている。この優位性を活用して、本学は、「地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い」をモットーとして、「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ」をキャッチフレーズに教育研究並びに社会

貢献活動を展開している。それらの実績は、「全国大学の地域貢献度調査」（日経グローバル）においては、調査が開始された平成 18 年度に全国第 1 位となって以降、トップ 10 に 9 回ランキングされるなど高い評価を受けている。

4. 大学改革の方向性

宇都宮大学は、大学改革と人材育成の根本理念として、「3C 精神」：すなわち新たな地域社会の変革を担うべく、「主体的に挑戦し（Challenge）、自らを変え（Change）、社会に貢献する（Contribution）」をモットーとしている。また、「日本で最も学生を大切に育てる大学」、「日本で最も地域から信頼される大学」及び「あらたな知を創造し続ける大学」を目指して、組織改革や人材養成を進めている。

本学の特性である“顔の見える距離感”を活かしたきめ細かな教育を最も重要な役割と考え、問題解決能力を身につけ、“あらたな社会”を拓き支える人材を養成している。特に、教育の透明性を高め、どのような人材を養成するのか、そのためにどのような教育課程（カリキュラム体系）を実施するのか等、教育の質保証として教育目標とその達成度の見える化を図っている。

[個性の伸長に向けた取組]

本学は、第 2 期中期計画の取組と成果を基盤として第 3 期中期計画を構想し、「地域の“知”を創造し変革をリードする」地域の発展を支える大学を目指して、次の 5 つの重点戦略を打ち立てた。（別添資料 1. 第 3 期重点戦略 参照）

- 戦略① 地域の知の拠点形成
- 戦略② 地域人材育成の基盤強化
- 戦略③ グローカルリーダーの育成
- 戦略④ 地域イノベーションの創出
- 戦略⑤ ガバナンス改革、人事給与システム改革

その基盤となった第 2 期の取組と成果は以下のとおりである。

○ 地域の知の拠点形成（戦略①、②）

学長ガバナンスの下で、競争的補助金等（AP 事業、COC 事業、COC+事業など）を獲得してアクティブ・ラーニングの推進や地域課題に関する「とちぎ終章学総論」の必修化など教育方法・質保証の改善等に取り組むとともに、教員人事管理にポイント制の導入や新学部への設置に向けた学内資源の全学的な再配分を実現するなど教育研究体制を整備して、“知”の拠点としての機能を強化している。

（関連する中期計画）計画 1-1-1-1、1-1-3-1、1-2-1-1、
1-2-3-1、3-1-1-1、3-2-1-1、
3-2-1-2

○ 教育の質保証と達成度の見える化（戦略②）

教育の 3 方針とカリキュラムの体系を一体的に教育プログラム・シラバスとして整備するとともに、ディプロマ・ポリシーに対応したレーダーチャートを作成し、ポートフォリオと併せて個別指導を実施し、学生視点からの達成度の見える化を図っている。

大学院では、入学時の研究計画の策定から最終的な論文作成までのプロセス管理ときめ細かな指導を実施するとともに、「大学院学位論文評価基準」を策定・公表して透明性・公正性を図っている。

(関連する中期計画) 計画 1-1-1-2、1-1-5-1、1-1-7-1、
1-1-9-1

○ **グローバル化に対応した人材育成 (戦略③)**

全学生に対する実践的な英語教育プログラムを全国に先駆けて開発し実践している。

これをベースに産学官が連携した取組によって「トビタテ！留学 JAPAN：地域人材コース」が採択され、「国際インターンシップ」や「海外語学研修」などのプログラムと併せて、国際化に対応した実践的な人材育成を強化している。

(関連する中期計画) 計画 1-1-1-1、1-1-4-1、1-1-5-3、
1-1-9-2、3-2-2-1、3-2-2-2、
3-3-1-1、3-3-1-2、3-3-1-3

○ **キャリア教育の充実と高い就職率の維持 (戦略②、③)**

文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実支援体制整備事業（平成 24 年度～26 年度）において、「課題発見・解決型インターンシップ」と「国際インターンシップ」を推進するとともに、地域産学官連携による支援体制を強化し、実践的なキャリア教育ときめ細かな就職支援を推進して、全国トップ水準にある高い就職率を維持している。

(関連する中期計画) 計画 1-1-1-2、1-3-3-1

○ **高次の高大連携 (戦略③)**

高校生を対象とする公開講座や実践的英語教育の実績を基盤として、これらの取組と栃木県教育委員会との連携関係を活用することによって、グローバルサイエンスキャンパス事業が採択され、高次の高大連携による人材育成に取り組んでいる。

(関連する中期計画) 計画 3-2-2-2

○ **国内外の高等教育機関等との連携強化 (戦略③)**

国際的に通用性のある研究者を養成する観点から、工学研究科博士後期課程は海外の大学とダブル・ディグリー・プログラムを開発して実施している。また、本学の特長的な研究分野であるオプティクス分野と農学分野に関して、海外の卓越校（アリゾナ大学、パデュー大学）との連携を強化している。

(関連する中期計画) 計画 1-1-8-2、1-1-10-3、2-1-2-1

○ **多様な奨学金制度の創設 (戦略②、③)**

自己資金や寄附金による大学独自の奨学金として、優秀学生への学業奨励金、理系大学院生への奨学金、外国人留学生を対象とした経済支援など多様な奨学金制度を設けて学生に給付している。

(関連する中期計画) 計画 1-1-10-2、1-3-2-2

○ **研究支援制度の創設 (戦略④)**

個性的で発展性のある研究プロジェクト支援や新領域・融合領域における研究拠点の創生並びに若手教員を対象とした萌芽的研究支援など多くの研究支援制度を創設し、研究活動の活性化を図っている。

(関連する中期計画) 計画 2-1-1-2、2-1-3-2、2-2-1-1、
2-2-1-2

○ **研究支援体制の整備・推進（戦略④）**

リサーチ・アドミニストレーター(URA)を配置し、研究推進、地域企業等との連携や外部資金獲得の増加などを強力にサポートする研究支援体制を整備・推進している。

(関連する中期計画) 計画 2-1-1-1、2-2-1-1、2-2-1-3、
3-2-1-1

○ **地域イノベーションの創出（戦略④）**

オプティクス教育研究センターでは、民間企業との連携や競争的資金の獲得及び世界的水準の海外大学等とネットワークを形成し、世界と地域を結びつけた教育研究機能を強化している。また、農工融合分野を中心に、新産業の創出や既存産業の高付加価値化に結びつく地域イノベーション創出の機能を強化している。

(関連する中期計画) 計画 2-1-2-1、2-1-3-1、2-1-3-2、
3-1-1-1

○ **女性研究者研究活動支援（戦略⑤）**

「男女共同参画推進室」を設置し、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択によって、女性研究者のライフイベントと教育研究を両立するための環境整備を進めた。

(関連する中期計画) 計画 1-2-1-2

○ **教育関係共同利用拠点の強化（戦略①）**

農学部附属農場が文部科学省教育関係共同利用拠点として認定され、「首都圏における食・生命・環境の複合型フィールド教育共同利用拠点」形成事業として、他大学の学生が参加する「総合農学フィールド実習」など、単位認定を伴う教育連携を積極的に進めている。

(関連する中期計画) 計画 1-2-4-1

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

○ **経済的支援**

震災直後、他大学に先駆けて入学検定料免除制度を設けるとともに、在学生に対して授業料免除を行った。また、被災から1年経過以降も入学料、授業料の免除を可能にしたほか、地元篤志家と連携した被災学生に対するアパートの無料貸与などを継続し、積極的な支援を行った。

○ **震災等に対応した講義やボランティア活動支援**

基盤教育のアクティブ・ラーニング科目として「危機を見つめる力」等の関連科目を開設し市民にも開放して実施し、学生から高い授業評価 4.85 点（満点 5 点）を受けた。また、災害ボランティア活動を積極的に推進・支援し、石巻市などで在学生の約 10%にあたる 500 名を超える学生が地域社会の復興に協力した。同時に、地元 NPO と連携してボランティア支援室を開設し、震災関連のみならず地域でのボランティア活動にも幅を広げる活動を積極的に支援した。

○ **教育研究を通じた地域への貢献**

① 東日本大震災に係わる復興支援の研究をサポートするため、学長が支援するプロジェクト（総額 29,124 千万円）を募集し、地域での緊急性が高いプロジェクト 55 件を支援、研究結果をシンポジウム等で公表し地域から高い評価を得た。

また、放射性物質汚染に関する研究において数多くの外部資金を獲得し、農地・農

産物の被害等からの復興支援に寄与している。

- ② 放射性物質対策に対応し、教育研究に必須の「ゲルマニウム半導体検出器」を導入して、地域貢献に資する実践的な教育研究を推進した。
- ③ 栃木県内学校の教職員向けに「放射線の影響に関するQ&A」を他大学と連携して作成し、放射線等に関する教育への取組を支援した。
- ④ 栃木県農政部と共同で「放射性物質に関する農業技術対策指針」を作成するとともに、農地における放射線量測定を行った。
- ⑤ 平成23年度～平成25年度にかけて、放射線に関する講演会を学外で積極的に開催（20回以上）し、放射線に関する正しい知識の普及に努めた。
- ⑥ 「栃木県原子力災害対策専門委員会」及び「栃木県指定廃棄物処分等有識者会議」の委員として専門的な立場から参画している。

○ 危機管理

東日本大震災を踏まえ、施設の防災強化の観点から、学生寮の耐震工事等を実施したほか、災害時の初動対策として、災害対策用設備（避難セット、非常用食料等）の充実及び緊急放送設備の整備を行った。

○ 継続した支援活動

震災をきっかけに活動を開始して以降、被災地における学生ボランティア活動や「震災を考える高校生サミット in 栃木」等の開催、福島原発事故被害に関する研究など、特徴的な支援活動が現在も継続して行われている。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、宇都宮大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育の内容及び成果に関する目標	おおむね良好		1	10	1
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			4	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		1	2	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好		1	3	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			1	
(Ⅲ) その他の目標	良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	非常に優れている	1			
② 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			2	
③ 国際化に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 平成 23 年度に男女共同参画推進室を設置するとともに、平成 25 年度に文部科学省の女性研究者研究活動支援事業に採択され、出産・育児・介護に携わる教員に対する研究補助員の配置、女性教員採用特別制度による女性教員の採用等、女性教員の教育研究の環境整備に取り組んでいる。これにより、女性教員の割合と人数は平成 22 年度の約 13%、46 名から平成 27 年度の約 17%、58 名へ増加している。（中期計画 1-2-1-2）
- 栃木県内にある 19 大学等の機関の共同体である「大学コンソーシアムとちぎ」において、単位互換に関する協定を締結し、他大学の科目の受講と単位化を実現している。また、当該コンソーシアムとして栃木県等との連携により平成 26 年度から実施しているとちぎグローバル人材育成プログラムでは、平成 27 年度には 21 科目（うち宇都宮大学 8 科目）の大学間共通科目を開講し、282 名（うち宇都宮大学学生 245 名）が受講している。これに加え、国際インターンシップ、海外語学研修等の取組の成果として、文部科学省の官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN：地域人材コース」の採択につながっている。（中期計画 1-2-4-1）
- 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の一環として、国際インターンシップ、合宿形式の英語セミナーである **International Career Seminar** 等のグローバル化に対応したキャリア教育や、課題発見・解決型インターンシップ、外国人留学生に対する採用・活用促進セミナー等を実施し、就職支援活動の充実を図ることにより、学部生の就職率は第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）で平均 95.7%となっている。（中期計画 1-3-3-1）
- 光分野の教育研究拠点であるオプティクス教育研究センターを中心として、科学技術振興機構の戦略的イノベーション創出推進事業（S-イノベ）や農学部との連携による工学と農・医学との分野横断・融合的研究を推進している。また、平成 24 年度からの宇都宮大学研究拠点創成ユニットの UU-COE やその後継事業である平成 26 年度からの UU-COE-Next において、個性的で発展性のある研究プロジェクトに対する重点支援を実施している。このうち、難防除雑草の研究では論文データベースによる高被引用著者に出選されており、病虫害防除の研究では第 8 回産学官連携功労者表彰農林水産大臣賞や日本植物病理学会賞等を受賞している。（中期計画 2-1-2-1）
- 栃木県及びその周辺地域の農業と環境保全に貢献する産学官連携の場の形成及び地域の食、農、環境分野におけるイノベーションの創出を目的とした、しもつけバイオクラスター事業による研究成果等を基盤として、平成 25 年度からの大学発新産業創出拠点プロジェクトや、平成 26 年度からの地域イノベーション戦略支援プログラムの採択につながっている。これにより、イチゴをはじめとする農産物の包装容器、流通技術の開発等のため、平成 26 年度に大学発のベンチャー企業を設立し、当該企業と共同開発した輸送

技術を用いた栃木県産イチゴが、平成 27 年度の国際味覚審査機構（ベルギー）の審査で優秀味覚賞を受賞している。また、平成 23 年度から平成 26 年度にわたり、東日本大震災に係る災害復興再生の研究等に対して、学長のトップマネジメントによる支援プロジェクトとして、学長戦略経費により、地域での緊急性が高い 55 件のプロジェクトに対して総額約 2,900 万円を支援している。（中期計画 2-1-3-2）

- 平成 25 年度に文部科学省の地（知）の拠点整備事業（COC）、平成 27 年度に地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に採択され、「とちぎ学終章総論」、「とちぎ学」の全学必修化、副専攻の高齢者共生社会プログラムの開講等、地域志向の全学カリキュラムを整備している。また、平成 21 年度からの文部科学省の科学技術振興調整費事業である里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムを通して、栃木県と連携し、野生鳥獣管理士の養成に継続的に取り組むとともに、大学発新産業創出プロジェクトとして、県内の産官学等の 11 機関によるイチゴの生産・流通、機能性開発・加工の分野での地域イノベーションの創出に取り組んでいる。これらの取組は、文理融合により地域のまちづくりを担う人材養成を目的とする、平成 28 年度からの地域デザイン科学部の設置の決定につながっている。（中期計画 3-1-1-1）

改善を要する点

- 一部の研究科の学位論文の評価において、総合的な成績評価を実施しているものの、大学全体の組織的な取組としては、十分にはなされていない。また、評価・認定の基準の明確化の観点から、評価基準や評価方法の内容の公開についても一層の改善が必要である。（中期計画 1-1-11-2）

<復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組>

- 経済的支援

震災直後、他大学に先駆けて入学検定料免除制度を設けるとともに、在学生に対して授業料免除を行った。また、被災から 1 年経過以降も入学料、授業料の免除を可能にしたほか、地元篤志家と連携した被災学生に対するアパートの無料貸与などを継続し、積極的な支援を行った。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育の内容及び成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育の内容及び成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標(12項目)のうち、1項目が「良好」、10項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○教育課程体系及び学習・教育目標の達成度の可視化

中期目標(小項目)「多様化する入学者に対応し、基礎教育の充実を基本として、現代社会に必要なリテラシー、幅広い教養、社会人基礎力や自己実現能力、さらに実践的な専門性と問題解決能力とを身に付けた人材を育成する。」について、3ポリシー(アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー)に沿った教育課程の体系をカリキュラムツリーとして可視化した「宇都宮大学の学士課程教育－学生の皆さんへの約束－」を公開するとともに、学習・教育目標の達成度を可視化する取組として、ディプロマ・ポリシーに対応した目標達成度をレーダーチャートとして作成し、ポートフォリオと合わせて学生の個別指導に活用している。(中期計画 1-1-1-2)

○実践的な英語運用能力の向上に向けた取組

中期目標(小項目)「各授業科目の達成目標を明確にし、学生の特性も考慮した適切な授業形態をとるとともに、国際的な通用性も視野に入れた教育方法を追求する。」について、全学生に対する実践的な英語運用能力の向上を目標に、TESOL(英語授業法)有資格教員と外国人教員による習熟度別教育や個人クリニック等を実施することにより、TOEICスコアが550点以上の学生数は平成21年

度末の 50 名から平成 27 年度末の 192 名へ、650 点以上の学生数は平成 21 年度末の 15 名から平成 27 年度末の 57 名へ増加している。（中期計画 1-1-5-3）

（改善を要する点）

○大学院学位論文評価における組織的な総合評価

中期目標（小項目）「大学院教育の成績評価と修了認定の信頼性を確保するために、評価・認定の基準を明確にする。」のうち、中期計画「コースワークの適切な成績評価に加え、国内外での研究活動、学会発表、学会誌論文、作品発表等の諸活動を含め総合的に評価する新たな方法を定め、実施する。」について、一部の研究科の学位論文の評価において、総合的な成績評価を実施しているものの、大学全体の組織的な取組としては、十分にはなされていない。また、評価・認定の基準の明確化の観点から、評価基準や評価方法の内容の公開についても一層の改善が必要である。（中期計画 1-1-11-2）

（2）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○女性教員への教育研究環境の整備

中期目標（小項目）「教育の質の向上を図り教育目標を達成するために、学長のリーダーシップのもと教職員を適切に配置する。」について、平成 23 年度に男女共同参画推進室を設置するとともに、平成 25 年度に文部科学省の女性研究者研究活動支援事業に採択され、出産・育児・介護に携わる教員に対する研究補助員の配置、女性教員採用特別制度による女性教員の採用等、女性教員の教育研究の環境整備に取り組んでいる。これにより、女性教員の割合と人数は平成 22 年度の約 13%、46 名から平成 27 年度の約 17%、58 名へ増加している。

（中期計画 1-2-1-2）

○栃木県内 19 大学等との連携による単位互換の推進

中期目標（小項目）「国内外の高等教育機関と教育面の連携を強化し、教育の充実に役立てる。」について、栃木県内にある 19 大学等の機関の共同体である「大学コンソーシアムとちぎ」において、単位互換に関する協定を締結し、他大

学の科目の受講と単位化を実現している。また、当該コンソーシアムとして栃木県等との連携により平成 26 年度から実施しているとちぎグローバル人材育成プログラムでは、平成 27 年度には 21 科目（うち宇都宮大学 8 科目）の大学間共通科目を開講し、282 名（うち宇都宮大学学生 245 名）が受講している。これに加え、国際インターンシップ、海外語学研修等の取組の成果として、文部科学省の官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN：地域人材コース」の採択につながっている。（中期計画 1-2-4-1）

（3）学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

○就職支援活動の充実

中期目標（小項目）「学生の就職支援体制と支援業務を充実させる。」について、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の一環として、国際インターンシップ、合宿形式の英語セミナーである International Career Seminar 等のグローバル化に対応したキャリア教育や、課題発見・解決型インターンシップ、外国人留学生に対する採用・活用促進セミナー等を実施し、就職支援活動の充実を図ることにより、学部生の就職率は第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）で平均 95.7%となっている。（中期計画 1-3-3-1）

（特色ある点）

○外国人留学生への各種支援の実施

中期目標（小項目）「学生の生活上の問題に応じた、きめ細かな支援体制を構築し、実践する。」について、寄附金を財源とする奨学金により、外国人留学生を対象として、第 2 期中期目標期間に延べ 116 名に対して総額約 1,200 万円の経済的支援を行っているほか、海外留学経験のある日本人学生による留学生アドバイザーの制度を導入し、外国人留学生に対する生活支援を行っている。また、イスラム教徒の生活習慣等を理解し、交流を探めることを目的として、平成 25 年度に外国人留学生を中心とするイスラム研究会が発足し、教員が相談役として当該研究会をサポートしている。（中期計画 1-3-2-2）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○分野横断・融合的研究の推進

中期目標(小項目)「地域における「知の拠点」にふさわしい研究水準の維持・向上を図る。」について、光分野の教育研究拠点であるオプティクス教育研究センターを中心として、科学技術振興機構の戦略的イノベーション創出推進事業(S-イノベ)や農学部との連携による工学と農・医学との分野横断・融合的研究を推進している。また、平成24年度からの宇都宮大学研究拠点創成ユニットのUU-COEやその後継事業である平成26年度からのUU-COE-Nextにおいて、個性的で発展性のある研究プロジェクトに対する重点支援を実施している。このうち、難防除雑草の研究では論文データベースによる高被引用著者に選出されており、病虫害防除の研究では第8回産学官連携功労者表彰農林水産大臣賞や日本植物病理学会賞等を受賞している。(中期計画2-1-2-1)

○研究成果の社会への還元

中期目標(小項目)「社会のニーズを把握するとともに、「見える化」により研究成果を社会に還元し、社会及び地域の学術、文化、産業及び教育に貢献する。」について、栃木県及びその周辺地域の農業と環境保全に貢献する産学官連携の場の形成及び地域の食、農、環境分野におけるイノベーションの創出を目的とした、しもつけバイオクラスター事業による研究成果等を基盤として、平成25年度からの大学発新産業創出拠点プロジェクトや、平成26年度からの地域イノベ

ーション戦略支援プログラムの採択につながっている。これにより、イチゴをはじめとする農産物の包装容器、流通技術の開発等のため、平成 26 年度に大学発のベンチャー企業を設立し、当該企業と共同開発した輸送技術を用いた栃木県産イチゴが、平成 27 年度の国際味覚審査機構（ベルギー）の審査で優秀味覚賞を受賞している。また、平成 23 年度から平成 26 年度にわたり、東日本大震災に係る災害復興再生の研究等に対して、学長のトップマネジメントによる支援プロジェクトとして、学長戦略経費により、地域での緊急性が高い 55 件のプロジェクトに対して総額約 2,900 万円を支援している。（中期計画 2-1-3-2）

（2）研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(3項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「非常に優れている」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域と連携した教育プログラムの実施及びイノベーションの創出への取組

中期目標(小項目)「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。」について、平成25年度に文部科学省の地(知)の拠点整備事業(COC)、平成27年度に地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に採択され、「とちぎ学終章総論」、「とちぎ学」の全学必修化、副専攻の高齢者共生社会プログラムの開講等、地域志向の全学カリキュラムを整備している。また、平成21年度からの文部科学省の科学技術振興調整費事業である里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムを通して、栃木県と連携し、野生鳥獣管理士の養成に継続的に取り組むとともに、大学発新産業創出プロジェクトとして、県内の産官学等の11機関によるイチゴの生産・流通、機能性開発・加工の分野での地域イノベーションの創出に取り組んでいる。これらの取組は、文理融合により地域のまちづくりを担う人材養成を目的とする、平成28年度からの地域デザイン科学部の設置の決定につながっている。(中期計画3-1-1-1)

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(3) 国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育の内容及び成果に関する目標		おおむね良好	
多様化する入学者に対応し、基礎教育の充実を基本として、現代社会に必要なリテラシー、幅広い教養、社会人基礎力や自己実現能力、さらに実践的な専門性と問題解決能力とを身に付けた人材を育成する。		良好	
1-1-1-1	全学共通教育については、教育企画会議のもとで、共通教育センターが中心になり、キャリア教育・就職支援センター等と協力しながら、初期導入教育、リテラシー教育、教養教育、キャリア教育などから構成されるカリキュラム内容を充実させるとともに、全教員による担当体制を推進する。	良好	
1-1-1-2	専門教育については、各学部・学科で学習・教育目標に合わせた有機的なカリキュラム体系を整備し、教育の成果を明確にするとともに、教育目標に相応しい進路選択を行えるように、キャリア教育・就職支援センターを活用しつつ、きめ細かな指導を行う。	良好	特色ある点
アドミッション・ポリシーと教育の内容及び成果に関する目標、それを達成するためのカリキュラムを公表し、本学での学習を通して自己実現を目指す多様な学生を受け入れる。		おおむね良好	
1-1-2-1	志願者が学習する上で目標となる具体的なアドミッション・ポリシーを示すとともに、それにふさわしい学生を幅広く受入れるために、社会人や留学生を含めた様々な志願者が受験しやすい選抜方法を実施する。	おおむね良好	
1-1-2-2	入学者の特性に応じて、入学前学習支援を含めたリメディアル教育の体制を整備し公表する。	おおむね良好	
学士課程における教育の目標を達成するため、全学共通教育と学部専門教育を有機的に連携させ、体系的な教育課程を編成する。		おおむね良好	
1-1-3-1	全学共通教育においては、初期導入教育、リテラシー教育、教養教育、キャリア教育を基本にした教育課程を編成する。	おおむね良好	
1-1-3-2	全学共通教育と有機的に連携した学部専門教育のカリキュラムを専門分野ごとに編成し、4年一貫の体系的な学士課程教育を行う。	おおむね良好	
学生の興味関心に配慮した柔軟な教育課程を編成する。		おおむね良好	
1-1-4-1	環境問題など学生の幅広い興味関心に対応するために、基礎的な専門科目等を活用し、分野を越えた学際的な副次的教育プログラムを開設する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
各授業科目の達成目標を明確にし、学生の特性も考慮した適切な授業形態をとるとともに、国際的な通用性も視野に入れた教育方法を追求する。		おおむね良好	
1-1-5-1	カリキュラム体系における各科目の位置づけや科目間の連関などをシラバス等に明示し、学習支援を強化する。	おおむね良好	
1-1-5-2	入学者の資質に対応して、各専門分野の基礎科目に関するリメディアル教育を充実させる。	おおむね良好	
1-1-5-3	実践的な英語教育の充実、学術交流協定及び学生交流の覚書の締結大学（以下、協定校）を中心とした留学の推進や国際連携実習の支援により、国際的視野を持った学生を育成する。	おおむね良好	特色ある点
1-1-5-4	インターンシップなどの実践的な授業や実務経験者による授業を充実させるとともに、討論を含む双方向型の授業方法などを工夫し、実社会に対応できる学生を育成する。	おおむね良好	
1-1-5-5	低炭素社会で求められる、環境問題に関するグローバルな視野と実践力とを養うための教育を行う。	おおむね良好	
学士力を保証するため、各教育課程に適した厳正で適切な評価基準を設定し、達成度を評価する。		おおむね良好	
1-1-6-1	授業科目ごとの具体的な達成目標と成績評価の基準を継続的に見直してシラバスに明示し、適切で公正な評価を行う。	おおむね良好	
1-1-6-2	GPA(Grade Point Average)、GPT(Grade Point Total)等も踏まえた総合的達成度の評価方法と適切な利用方法を、専門分野の特性を考慮して定め、卒業生の質を保証する。	おおむね良好	
修士課程及び博士前期課程においては、創造的で実践的な応用力を身につけた高度専門職業人を育成し、また、博士後期課程においては、幅広い視野と高度な専門性を身につけ、創造性を備えた高度専門職業人・研究者を育成する。		おおむね良好	
1-1-7-1	アドミッション・ポリシーと教育目標を達成するためのカリキュラムと修了に至るまでのプロセス管理を明確にし、大学院教育の充実と質保証の仕組み作りを行う。	おおむね良好	
1-1-7-2	教員が適切なサポートをすることにより学生自身にワークショップやシンポジウムなどを企画・実施させ、学生の実践的な応用力や創造性を養う。	おおむね良好	
多様な学問分野の経験や経歴を持つ学生を広く国内外から受入れる体制を整備し、高度な知識・実践力の修得や研究に意欲的に取り組む学生を受入れる。		おおむね良好	
1-1-8-1	一般学生、社会人や留学生などさまざまな学問分野や背景を持つ志願者が受験しやすい選抜方式を実施する。	おおむね良好	
1-1-8-2	国内外の大学等と教育研究の連携を深め、多くの学生にアドミッション・ポリシーを浸透させ、多様な目標を持った学生を確保する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
修士課程及び博士前期課程においては、高度な専門性・創造性をもって自律的に諸課題を解決する能力を育む教育課程を編成する。博士後期課程においては、専門分野のさらなる高度化を図り、広い視野からの柔軟な発想や創造性を培う教育課程を編成する。		おおむね良好	
1-1-9-1	コースワーク（科目履修）とリサーチワーク（研究論文等作成）を有機的に結び付けたカリキュラム体系を明示するとともに、論文提出に至るプロセス管理を徹底し、学習支援を強化する。	おおむね良好	
1-1-9-2	コースワークでは複数の専門分野に亘る高度な知識の習得を可能とするため、専門領域ごとに、大学院レベルのリテラシー科目と専門科目とを整備し、その内容とシラバスを充実させる。さらに専門領域を超えた学士課程・大学院課程での授業科目とも有機的に連携させ、資格・免許取得プログラムへの対応も含め、学生のニーズに応える。	おおむね良好	
1-1-9-3	リサーチワークでは、課題設定から論文等作成に至るプロセスを複数の指導教員により多面的に指導し、課題解決能力と創造性を育成する。	おおむね良好	
学生の特性を考慮しながら適切な指導形態をとるとともに、国際的な通用性を考慮した、実践的な教育方法を導入する。		おおむね良好	
1-1-10-1	課題解決型実習授業や、外部機関等と連携した研究プロジェクトへの参加などによるPBL教育（Project/Problem Based Learning）を推進し、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力等を総合的に育成する。	おおむね良好	
1-1-10-2	インターンシップなど社会の教育機能を活用するとともに、国内外での研究活動・学会発表や、学会誌投稿論文等の執筆を促進し、自発的に研究を進める体制を整える。	おおむね良好	
1-1-10-3	海外研究者による講義、国際的なセミナー・シンポジウム・学会への参加など、学生が国際的視野を育むための機会を増やすとともに、他大学・他研究科の大学院学生を含めた合同セミナー・合同フォーラムを支援して、複眼的な視野を育成する。	おおむね良好	
大学院教育の成績評価と修了認定の信頼性を確保するために、評価・認定の基準を明確にする。		不十分	
1-1-11-1	評価の基準をシラバスに明示するとともに、論文審査においては学生の課題探求能力や解決能力など具体的な判断基準に基づいた評価を行い、修了認定の信頼性を確保する。	おおむね良好	
1-1-11-2	コースワークの適切な成績評価に加え、国内外での研究活動、学会発表、学会誌論文、作品発表等の諸活動を含め総合的に評価する新たな方法を定め、実施する。	不十分	改善を要する点
FD (Faculty Development) を実施し教育力を向上させるとともに、社会のニーズに対応して教育方法を改善する。		おおむね良好	
1-1-12-1	優れた教育活動に対する表彰・評価、講演会などの企画型FD活動に加え、学科等における授業公開や教育方法の議論などのFD活動により教員の教育改善に対する意識を高めるとともに、学外者や教員相互による授業評価、学生の授業評価の結果を反映したPDCAサイクルを活性化して教育力を向上させる。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
教育の質の向上を図り教育目標を達成するために、学長のリーダーシップのもと教職員を適切に配置する。		おおむね良好	
1-2-1-1	専任教員数の削減後においても教育の質を保証するため、学部・学科を超えて開講科目を開放し、教員及び教育を支援する職員やTA・RAを適切に配置するとともに、特任教員制度、退職教員や学外者の協力を得て教育の担当体制を充実させる。	おおむね良好	
1-2-1-2	男女共同参画に配慮し、出産・育児・介護等の特定期間中において代替教員、TA等を適切に配置する。	良好	優れた点
施設設備・備品等の整備や更新を学長のリーダーシップのもと戦略的に行う。		おおむね良好	
1-2-2-1	実験・実技・実習などで使用する施設設備・備品等を充実するための経費を戦略的に配分し、実践的教育の水準を確保する。	おおむね良好	
1-2-2-2	学生共用スペース等の確保や外部と交流するための経済的補助などにより、学生の自主的な学習や課外活動を支援する。	おおむね良好	
教育の質の改善を図るための学内組織を整備するとともに、開かれた大学として、外部からの評価を反映させた改善を行う。		おおむね良好	
1-2-3-1	学長の教育に関する基本方針とリーダーシップのもとで、教育研究評議会と教育企画会議により改善計画を策定し、これに基づき学部・教育関連のセンター・全学教務委員会等の有機的な連携により教育改善を行い、学生や学外委員による評価・提案を次の計画に反映させて、教育改善のPDCAサイクルを強化する。	おおむね良好	
国内外の高等教育機関と教育面の連携を強化し、教育の充実に役立てる。		おおむね良好	
1-2-4-1	近隣の大学等と単位互換、カリキュラム開発、授業方法の改善などの連携を行い、教育力を向上させる。	良好	優れた点
1-2-4-2	協定校を中心とする海外高等教育機関との連携を充実させ、教育の国際的な通用性を向上させる。	おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
学習意欲を高める環境やきめ細かな学習支援体制を整備する。		おおむね良好	
1-3-1-1	TA、チューター等を活用して、学習を支援する環境を強化する。	おおむね良好	
1-3-1-2	附属図書館、総合メディア基盤センター、自習環境等の機能充実を図る。	おおむね良好	
1-3-1-3	教務情報データベースを整備して学生ポートフォリオの一部として機能させるとともに、指導教員と学生との面談が適切に行われるような体制を整備し、個々の学生の学習に関するきめ細かい相談・指導・助言を行う。	おおむね良好	
1-3-1-4	学生による自主的プロジェクトを支援し、学生の学習意欲と自主性を高める。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
	学生の生活上の問題に応じた、きめ細かな支援体制を構築し、実践する。	おおむね良好	
1-3-2-1	教職員が一体となって、学生の生活、メンタルヘルス、対人関係などに留意するとともに、ハラスメントの問題に対処することのできる相談・支援体制を充実させる。	おおむね良好	
1-3-2-2	留学生を含め学生の生活支援体制を整備・充実させるとともに、必要に応じて経済的支援を行う。	おおむね良好	特色ある点
	学生の就職支援体制と支援業務を充実させる。	良好	
1-3-3-1	産学官連携のもとに実務家と担当教員が一体となり実践的キャリア育成を行うとともに、就職のためのガイダンス、セミナー、進路相談、情報提供などの支援活動を充実・強化する。	良好	優れた点
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標		おおむね良好	
持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、基礎から応用に至る基盤的研究と、学長のリーダーシップのもと大学独自の個性的で発展性のある研究を推進する。		おおむね良好	
2-1-1-1	研究水準を高めるためのベースとなる研究環境や支援体制を戦略的に整備する。	おおむね良好	
2-1-1-2	研究企画会議において大学独自の「個性的で発展性のある研究プロジェクト」（以下、個性化プロジェクト）や若手の萌芽的研究プロジェクトを厳選し、全学的な支援により研究水準を向上させる。	おおむね良好	
地域における「知の拠点」にふさわしい研究水準の維持・向上を図る。		良好	
2-1-2-1	光学をはじめとする特定分野で高い水準の教育研究拠点の形成を目指す。	良好	優れた点
社会のニーズを把握するとともに、「見える化」により研究成果を社会に還元し、社会及び地域の学術、文化、産業及び教育に貢献する。		おおむね良好	
2-1-3-1	研究成果を社会に公表し、ニーズを的確に把握・整理して学内に周知する仕組みを活用することにより、研究成果の社会還元を積極的に展開する。	おおむね良好	
2-1-3-2	地域が抱える課題を解決するための研究プロジェクト等を積極的に推進する。	良好	優れた点
2-1-3-3	研究成果を大学ホームページに掲載するとともに、学内の適切な箇所に展示するなどして広く社会に公開する。	おおむね良好	
基盤的研究及び「個性化プロジェクト」の水準・成果を組織的に検証する。		おおむね良好	
2-1-4-1	基盤的研究については教員基礎情報データベース等に、また「個性化プロジェクト」については公開報告会等に基づき、それぞれ研究の水準と成果を検証する。	おおむね良好	
2-1-4-2	検証結果に基づき水準が特に高い研究や成果の社会還元が顕著である研究については、成功モデルとして研究プロセスを共有できる体制を整備し、研究水準の向上や研究推進に活用する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）	中期計画		
計画番号	中期計画		
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
基盤的研究の持続的な発展と大学独自の個性的な研究分野の開拓に向けて、学長のリーダーシップのもと研究支援者の適切な配置、研究資金及び研究スペース等の戦略的配分を行う。		おおむね良好	
2-2-1-1	基盤的研究を一層発展させるため、資金など研究環境を戦略的に整備する。	おおむね良好	
2-2-1-2	若手の萌芽的研究、学部・研究科を超えた連携や産学官・社会連携による「個性化プロジェクト」を支援する。	おおむね良好	
2-2-1-3	間接経費配分の見直し等を行い、大型研究プロジェクトで研究支援者を確保しやすい環境を整える。	おおむね良好	
2-2-1-4	若手の萌芽的研究プロジェクト、「個性化プロジェクト」等の研究活動のニーズを踏まえ、研究経費、研究スペース等の戦略的配分を行う。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標		良好	
① 地域を志向した教育・研究に関する目標		非常に優れている	
地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。		非常に優れている	
3-1-1-1	「地域のための大学」として、全学的な教育カリキュラム・教育組織の改革を行い学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域社会と大学が協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	非常に優れている	優れた点
② 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
本学の理念「地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い」を基本に、「知の拠点」として地域連携を積極的に推進し、地域社会に貢献する。		おおむね良好	
3-2-1-1	教育研究に関わる地域からのニーズに対し、各学部・研究科、生涯学習教育研究センター、地域共生研究開発センター等への適切な案内を行うため、地域から見えやすいシステムを構築する。	おおむね良好	
3-2-1-2	県内自治体との間で構成する地域連携協議会等を充実させ、地域との連携を強化する。	おおむね良好	
3-2-1-3	オプティクス教育研究センターを中心にした高度な水準の光学技術拠点を形成し、地域社会に貢献する。	おおむね良好	
他高等教育機関及び社会と連携して産学官協働を推進し、社会の抱える問題を解決するための教育と研究を充実させる。		おおむね良好	
3-2-2-1	「大学コンソーシアムとちぎ」と連携して産学官連携活動を積極的に推進する。	良好	
3-2-2-2	地域の教育力向上、高大連携、社会人の学び直しを積極的に展開し、地域社会に貢献する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
③ 国際化に関する目標		おおむね良好	
協定校をはじめとする海外の諸大学等との教育研究活動の連携を強化するとともに、地域の国際交流活動や国際化に伴う課題の解決に貢献する。		おおむね良好	
3-3-1-1	協定校を中心に共同研究やシンポジウム等を充実させるとともに、教職員、学生の教育研究交流を活発化する。	おおむね良好	
3-3-1-2	留学生の受け入れの拡充と派遣体制を整備するとともに、海外の同窓生ネットワークを構築し、帰国後の学生との連携を強める。	おおむね良好	
3-3-1-3	学生の通訳ボランティア活動や留学生と地域との交流を支援するとともに、地域の国際理解や国際化に伴う課題の解決に協力する。	おおむね良好	